

令和7年度 小金井市地域課題分析・評価シート（きたエリア）

I. 地域課題と考えられる課題

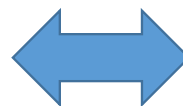
- ①地域とのつながりがなく、孤立したまま困難に直面する高齢者が増えている。【総・小】
- ②高齢になると起こりうる困りごとへの備え、いざという時の備えが十分にできていない。【総・小・ニ】
- ③核家族が多いため、子ども世代にも、親の加齢に伴う変化やそれにより発生しうる困りごとについての知識がなく、介入が遅れがちである。【総・小】
- ④町会の加入率が減少傾向にある一方、災害が相次いだことから、共助に向けての地域づくりに関心を持つ人も増えており、その連携のサポートが必要。【小・ニ・他】
- ⑤人材不足、会場不足などで、地域活動の継続が困難になっている。【小・他】



根拠情報 [ニ]：ニーズ調査 [小]：小地域ケア会議（2層協議体）  個別地域ケア会議

II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- 自ら積極的に動く、新しいことに取り組むのが億劫。（①、②、⑤）
- 情報の入手先がわからない。情報への感度が低い。（①、②）
- 自らの老いを受け入れることが難しい。（②）
- 子どもに迷惑をかけたくない気持ちと自らのプライドから、なかなか周囲に相談できずにいる。（①、②）
- 収入が年金だけでは、長い老後が経済的に不安。（⑤）



地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

- ①地域とのつながりがなく、孤立したまま困難に直面する高齢者が増えている。【総・小】
- ②高齢になると起こりうる困りごとへの備え、いざという時の備えが十分にできていない。【総・小・ニ】
- ③核家族が多いため、子ども世代にも、親の加齢に伴う変化やそれにより発生しうる困りごとについての知識がなく、介入が遅れがちである。【総・小】
- ④町会の加入率が減少傾向にある一方、災害が相次いだことから、共助に向けての地域づくりに関心を持つ人も増えており、その連携のサポートが必要。【小・ニ・他】
- ⑤人材不足、会場不足などで、地域活動の継続が困難になっている。【小・他】

[総]：総合相談 [他]：その他（懇談会）

III. 考えられる背景（環境要因）

- コロナで中断したご近所付き合いが、コロナ前の水準には戻っていない。町会の加入率も漸減している。
- 未婚化の進んだ世代が老後を迎え、一人暮らし高齢者が増加傾向。
- 親との同居、介護の経験がなく、老いがどういうものか知らないシニア世代が増えている。
- 医療、介護などの制度維持のためにシニア世代の負担が増している。
- 寿命が伸び、人生100年を想定した老後のプランが必要になっている。
- メディアからの情報の氾濫で、かえって正確な情報を入手しづらくなっている。情報の見極めが難しい。
- 地域活動に取り組む人材が不足しており、それぞれが自身の活動の継続で手一杯であり、活動について発信したり、共有したりする余力がない。

※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和7年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（きたエリア）

活動目標

- ①シニア層が知っておくべきテーマについて、「きた包括暮らし講座」ほかの講座やイベントで啓発するほか、団体からの要請に応じて講座開催の支援を行う。
- ②シニアだけでなくすべての世代に関心の高い「防災」をテーマに、地域住民と協力しながら「共助」につながる取り組みを展開する。
- ③地域活動を充実させるために、リーダー同士の情報共有、連携をサポートする。
- ④地域活動の担い手不足を補うべく、主に2層協議体の場において、多世代や分野横断で支え合う仕組みを作っていく。



活動目標の達成状況（結果評価）

- ①お金の管理についての啓発、リハ職巡回事業、認知症講座、やすらぎ支援講習会、スマホ講座などを開催。
- ②地域安全課との連携による「きた包括防災講座」を2回開催したほか、圏域内の自主防災会・避難所運営協議会の防災訓練に参加。訓練への参加を促すための周知にも協力。地域住民と地域の事業所の連携をめざし、包括より事業所への参加依頼も行った。
- ③さくら体操自主グループリーダー連絡会を1回開催。地域活動支援のため、学習会・サロン主催者を対象とした連絡会開催も考えたが、対応する時間が取れなかった。
- ④ないまぜの会、みんな愛の場で意見収集したが、シニアでも就労を希望する方が増えており、無償ボランティアでは人材の確保が難しい、町会・自治会・PTA活動も有償にしてほしいといった声が多く。取り組みについての具体的な方向性を新たに見出すことはできなかった。

手段	R6	R7	R8	結果
市内の地域活動でまだ把握できていないものを幅広く発掘し、公式LINEでの紹介や応援ブックへの掲載を行う。これにより住民の地域活動への参加を促していく。				・7年度未発行の応援ブックには、新規11団体を掲載。 ・応援ブック・マップ配布により、新たに活動に参加した方をすべて把握をする手段・方法はない。 ・2層Coが新たに地域活動への参加をつないだケースとしては、認知機能の低下により、それまで参加していた団体に参加できなくなった、といった個別相談からのケースが多い。そうしたケースで新たに繋がった先のほとんどが緑長生会。次いで、さくら体操自主グループ満席に伴う、運動系の団体紹介。
シニア層が知っておくべき事柄について、「きた包括暮らし講座」、認知症カフェなどで取り上げ啓発する。地域のサロン等での講座開催支援も継続。				・お金の管理についての啓発…社協職員を招いての講座開催2件。包括職員によるリーフレット紹介4件。 ・リハ職巡回事業…新規1団体を含め、計4団体対象に実施。 ・認知症講座…認知症になったあとのサービス利用まで含めて啓発。1団体。 ・やすらぎ支援講習会…やすらぎ支援に興味のある方々を対象に、新規ボランティア獲得のための講座を手配。1人が新たに支援員として活動開始。 ・スマホ…高次機能障害のある方への個別対応1件。障害者団体での開催支援1件。サ高住入居者および地域住民を対象とした勉強会1件。
世代を超えて防災への意識が高まっている。防災をテーマに地域住民と協力しながら、多世代が参加できるイベント、講座などを開催することにより、「共助」の基盤となる地域づくりに取り組む。				・地域安全課との連携による「きた包括防災講座」を2回開催。計60名ほどの参加。地域の町会・自主防災会の横のつながりづくりに一定の貢献。 ・地域の防災士や防災に関心のある住民と「ぼうさいCafeさくら」を新規に立ち上げ。2か月おきに毎回テーマを変え、計6回開催。「ぼうさいCafeさくら」の運営に関しては、2層協議体開催によりサポート。 ・「ぼうさいCafeさくら」として、本町住宅で開催の「道草市」に参加。 ・毎年10月最終日曜日開催の「梶野公園まつり」について、事務局として準備段階から関わる。残念ながら前々日に雨天で中止の判断となる。 ・本町二丁目防災会、桜町自主防災会、緑町連合会、三小避難所運営協議会、本町四丁目町会防災会の訓練、地域安全課主催の防災講習会に参加。三小避難所開設訓練には、公式LINEからの周知により町会員以外の参加者を獲得。また包括からの呼びかけにて、ヨハネ支援センター、おとなりさん。ひこばえ、小金井市障害者就労支援センターからもスタッフの参加を得た。 ・福祉避難所の指定を受けているヨハネ会高齢部門の防災力向上のため、地域の防災会、事業所などの連携を仲介し、地域住民参加型の防災訓練、拡大防災委員会、つきみの園防火管理者との意見交換会などを実施。 ・その他、今後の企画の参考や人脈作りのため、東京都、東社協主催の防災研修にも参加。
応援ブック、マップ、その他、市・包括からのお知らせを、広く配布する。多世代に周知できるよう、紙媒体での提供、公式LINEでの周知に加え、SNSも活用する。SNSからの情報発信については、包括と連携のある現役世代やまちおこし協会などにも協力いただくことで、現役世代含め、幅広い層に包括を知って頂けるようにする。				・きた包括公式LINEの登録は220件ほど(3月末現在)。 ・包括主催イベントのほか、市からの情報、公民館、地域活動団体、町会・自主防災会主催イベントなどについても積極的に紹介。 ・LINEから情報を得た方からの参加申し込みが着実に増えている。各団体から、きた包括公式LINEでの周知を依頼されるケースも増えている。 ・包括職員の公式LINE以外のSNS活用は限定的。まだまだ友達も少ない状況のため、Facebook、Instagramなどで幅広く発信されている協力者(地域で活躍する防災士、市議、その他地域活動を実施する方々)などへの協力を依頼。 ・まちおこし協会に講座やイベントの周知のためのYouTube動画作成を依頼。それにより、Facebookからの発信や、駅の配架ラックへのちらし設置のご協力をいただいた。 きた包括防災講座周知のYouTube動画視聴数は、1回目から2回目で約2倍の伸び。
地域活動の周知、人材の発掘、会場となる地域資源の発掘を通して、地域活動の立ち上げや、安定した運営をサポートする。				・包括が協力しての講座の開催、公式LINE等やちらし配布による周知の協力などにより、地域活動の安定した運営に協力。 ・人材の発掘や会場となる地域資源の発掘までは対応できなかった。
上記以外にも、2層協議体や個別ケア会議の開催により、地域課題の把握や解決に努める。				・定期開催のないまぜの会、さくら体操自主グループ連絡会に加え、防災をテーマにした2層協議体を計5回開催。 ・個別ケア会議では、高次機能障害のある方のスマホ学習について、老後資金のほとんどを詐欺被害で失った方の支援について検討。前者は担当ケアマネや地域活動団体と、後者は社協と連携して支援。

※ 活動目標とは：ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。 ※ 手段とは：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

I. 地域課題と考えられる課題

- ①地域とのつながりがなく、孤立したまま困難に直面する高齢者が増えている。【総・個・小】
- ②高齢になると起こりうる身体の変化やそれに伴う困りごとへの備え、いざという時の備えが十分にできていない。【総・個・小】
- ③核家族が多いため、子ども世代にも、親の加齢に伴う変化やそれにより発生しうる困りごとについての知識がなく、介入が遅れがちである。【総・小】
- ④特に災害時など、シニアの安心・安全を支える共助の基盤である町会・自治会・自主防災会の活動について、情報が周知される機会が少ない。また活動に取り組む人々の連携や情報共有が不十分である。【小・他】
- ⑤人材不足などで、地域活動の継続が困難になっている。【小・他】

根拠情報

[ニ]：ニーズ調査 [小]：小地域ケア会議（2層協議体）
[個]：個別地域ケア会議 [総]：総合相談
[他]：その他（懇談会）

II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- 自ら積極的に動く、新しいことに取り組むのが億劫。（①、②、⑤）
- 情報の入手先がわからない。情報への感度が低い。（①、②）
- 自らの老いや、加齢に伴って生じる課題に正面から向き合うことが難しい。（②）
- 子どもに迷惑をかけたくない気持ちと自らのプライドから、なかなか周囲に相談できずにいる。（①、②）
- 健康寿命がのびている一方で、老後の生活が長くなり、年金収入だけで一生やっていけるのか、といった不安を抱えている。（⑤）

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

III. 考えられる背景（環境要因）

- 未婚化の進んだ世代が老後を迎え、一人暮らし高齢者が増加傾向である。
- 親との同居、介護の経験がなく、老いがどういうものか知らないシニア世代が増えている。
- 医療、介護などの制度維持のためにシニア世代の負担が増している。
- 寿命が伸び、人生100年を想定した老後のプランが必要になっている。
- メディアからの情報の氾濫で、かえって正確な情報を入手しづらくなっている。情報の見極めが難しい。
- 地域活動に取り組む人材が不足している。それぞれが自身の活動の継続で手一杯であり、活動について発信したり、共有したりする余力がないし、その仕組みも十分でない。
- 中東はじめ国際情勢の緊迫化により、物価高騰が一層深刻になっている。

※ **地域課題とは**：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和8年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（きた エリア）

活動目標

①シニア層が知っておくべきテーマについて、地域の活動団体との共催、またはきた包括主催により講座やイベントで啓発する。地域の活動団体と共催する際には、団体の活動のPRも積極的にサポートする。

②シニアだけでなくすべての世代に関心の高い「防災」に引き続き取り組み、特に町会・自治会・自主防災会との関係づくりや相互の連携、情報共有に力を入れる。地域の防災力向上のため、地域と事業所との連携にも取り組む。防災に積極的でない層に対しては、楽しいイベントなどを通しての啓発を模索する。

③地域での支え合いについて成功事例の収集に努め、その取り組みから学ぶ機会を得る。



活動目標の達成状況（結果評価）

--

手段	R7	R8	R9	結果
市内の地域活動でまだ把握できていないものを幅広く発掘し、公式LINEでの紹介や応援ブックへの掲載を行う。これにより住民の地域活動への参加を促していく。				
シニア層が知っておくべき事柄について、地域の活動団体との共催、またはきた包括主催により講座やイベントで啓発する。				
すべての世代に関心の高い「防災」に引き続き取り組み、特に町会・自治会・自主防災会との関係づくりや相互の連携、情報共有、町会等と事業所との連携に力を入れる。関心の低い層への啓発のあり方について模索する。				
応援ブック、マップ、その他、市・包括からのお知らせを、広く配布する。多世代に周知できるよう、紙媒体での提供、公式LINEでの周知に加え、SNSも活用する。SNSからの情報発信については、包括と連携のある現役世代やまちおこし協会、J:comとも連携する。				
地域での支え合いについて成功事例の収集に努め、その取り組みを学ぶことで、新たな取り組みの可能性を探る。				
上記以外にも、2層協議体や個別ケア会議の開催により、地域課題の把握や解決に努める。				

※ 活動目標とは：ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること ※ 手段とは：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

I. 地域課題と考えられる課題

- ①【総】【小】孤立しがちな高齢者（※）をインフォーマル支援にどうつなげるか（※）閉じこもりがちな独居・高齢世帯
- ②【総】【小】【他】ボランティアなどの活動を何かやりたいと思ってもどこに聞いたら良いかわからない、情報がいろんなところにあってどれを見たら良いかわからない
- ③【総】地域住民で認知症と思われる方がいてもどう対応したら良いかわからない
- ④【小】【他】既存の地域活動を行うグループ内で次を担う方がいない



地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

- ①孤立しがちな高齢者への対応を含めた地域課題について二層協議体（サロン連絡会）で検討を行った。
- ②総合相談からインフォーマル情報提供につながったケースは3件。他、民生委員や通いの場での応援ブック（地域デビューガイド掲載）周知活動を行った。また、地域住民（認知症カフェボランティア他ボランティア活動に参加している）が応援ブック周知に協力してくださっている。
- ③認知症サポーター養成講座は開催できなかった。地域住民から認知症と思われる方の情報は2件あり、個別に対応を行った。
- ④二層協議体（サロン連絡会）にて、民生委員とサロン主催者とともに検討。来年度のサロン連絡会にてサロン立ち上げ運営マニュアル（仮）を作成することとなった。

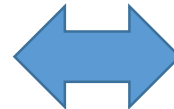
根拠情報

- [ニ]：ニーズ調査
- [小]：小地域ケア会議・2層協議体
- [個]：個別地域ケア会議
- [総]：総合相談
- [他]：その他（懇談会など）



II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- ・①：地域活動で何をやっているのかわからない
誰に聞いたら良いかわからない
- ・①②：どこに情報があるかわからない
情報がありすぎて精査する力がない
- ・②③：困りごとに対して有効な情報が分からない
- ・①②③：多様な情報手段への対応能力の低下
- ・④：地域活動に参加したいがリーダー的役割を担いたくない、責任を負いたくない、家族のことなどで忙しい



III. 考えられる背景（環境要因）

- ・①：退職後の役割や生きがいの消失
核家族化や未婚増加など、独居や高齢世帯の増加
近隣住民との関係の希薄化
- ・①②③：
情報過多の中で必要な情報の集め方がわからない
社会の多様化に加えコロナ禍後の個別化が進んでいる
社会資源へのアクセス機会低下
- ・④：リーダー的役割へのイメージ
（「責任が伴う」「いろいろとお世話しないといけない」）

※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和7年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（みなみエリア）

活動目標

【A】孤立しがちな高齢者の心配ごとや、どんなことをやりたいかを把握し、必要な支援につなげる（課題①）
 【B】住民が必要と感じている情報を把握しまとめ、情報提供できる仕組みをつくる（課題①②③）
 【C】近隣者で顔の見える関係作りを行う（課題③）
 【D】多世代交流やICT活用による多様で多層的なつながりづくり（課題①③④）
 【E】圏域内のコミュニケーション手段強化（課題①④）



活動目標の達成状況（結果評価）

【A】未達成：民生委員が第二層協議体に参加し情報共有できたものの、まだ必要な支援につなげる等の連携に至っていない。
 【B】一部達成：包括ニュースの発行やLINEでの配信は継続。所内共有用のファイルを作成。しかし、住民からの情報把握や情報提供できる仕組みづくりは未達成。
 【C】達成：サロン主催者と民生委員が参加した第二層協議体を開催したことで、すでに包括とつながりのあるところから顔の見える関係作りを開始した。
 【D】達成：光の子フェスタ（光明第二保育園）、道草市（他分野が参加しているイベント）への参加継続、障害者支援団体（Waaa）への地域住民（裁縫ボランティア）紹介、生活支援Co間のMCS作成を達成。
 【E】達成：通いの場とのメールの活用や生活支援Co間のMCS作成、所内でのインフォーマル情報ファイルを作成。

手段	R5	R6	R7	結果
【A】【B】自治会・町会、通いの場、民生委員、総合相談などで必要に応じてアンケートまたは聞き取りを行い、ニーズを把握する。				第二層協議体（サロン連絡会）に民生委員が参加し、サロン主催者とともに地域課題について共有を行った。民生委員の高齢者訪問後に行うと意見も出やすいとの意見あり。その他、多くの意見があり、今後も課題共有の場があると良いとの意見があった。
【A】【C】【D】【E】民生委員や自治会役員と連携し、地域活動につながりたい希望のある方や地域活動を担う存在の人材発掘を行う。				今年度は実施することができなかった。（民生委員への応援ブックや地域デビューガイドの周知に留まった。）
【A】【B】【C】【E】小規模での話し合いの場（二層協議体・個別地域ケア会議）を行い、地域課題を検討する。				第二層協議体（サロン連絡会）に民生委員が参加し、サロン主催者とともに地域課題について共有を行った。多くの意見があり、今後も課題共有の場があると良いとの意見があった。
【B】【D】みなみ包括ニュースの定期発行を行い、住民や地域の情報ツールとして継続する。ケアマネジャーなどの関係者や家族にも圏域の情報が届くようLINEを活用する。				・みなみ包括ニュースは予定通り年4回発行を行った。 ・LINEでの周知活動は平均して週1回の配信を継続している。
【B】【C】【E】住民や自治会、通いの場などへの学びの場づくりや情報提供を行う。必要に応じて後方支援を行う。 具体例）認知症サポーター養成講座やお金の管理啓発講座、スマホ相談会の実施				・他圏域でのお金の管理啓発講座見学を行った。 ・みなみ圏域のサロン（おしゃべりサロン）1ヶ所にてお金の管理啓発講座実施。 ・スマホ相談会は単発で1団体（シニアライフ専門委員会）、継続（隔月）開催1団体（貫井住宅さくら体操の会）にて開催することができた。継続団体は次年度日時変更（貫井住宅ラジオ体操の後）して開催が決定している。 ・通いの場や自治会での認知症サポーター養成講座は未実施。
【B】【D】地域デビューガイドを活用し、適宜情報提供を行う。				総合相談からインフォーマル情報の案内につながった際、個別支援として地域デビューガイドの活用を3件行った。
【B】【C】【E】応援ブック・マップに掲載しているグループの最新情報の更新、掲載されていないグループの情報を収集しまとめ、みなみ包括内だけでなく情報を必要としている地域住民や関係者に共有できるような仕組みを検討し作成する。 具体例）MCS等を活用し関係者間で最新の情報を更新しやすくする。				・応援ブックリニューアルのための情報更新を行った。今回は郵送や電話でのやりとりの他、メールでやり取りできた8団体とは円滑に情報更新をすることができた。 ・生活支援コーディネーターのMCSを作成。こちらも円滑な情報のやりとりを行っている。 ・所内共有用の地域情報（イベントなど）、インフォーマル情報（制度など）のファイルを作成。※紙ベースでの作成、
	情報収集は継続し			まとめて共有する仕組み作りを行う

※ 活動目標とは：ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えらえる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ 手段とは：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和8年度 小金井市地域課題分析・評価シート（みなみエリア）

I. 地域課題と考えられる課題

- ① 【総】【小】孤立しがちな高齢者(※)をインフォーマル支援にどうつなげるか (※)閉じこもりがちな独居・高齢世帯
- ② 【総】【小】【他】ボランティアなどの活動を何かやりたいと思ってもどこに聞いたら良いかわからない、情報がいろんなところにあってどれを見たら良いかわからない
- ③ 【総】地域住民で認知症と思われる方がいてもどう対応したら良いかわからない
- ④ 【小】【他】既存の地域活動を行うグループ内で次を担う方がいない
- ⑤ 【小】【他】地域の困りごとや社会資源について話をする機会が少ない



地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

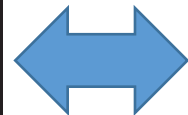
根拠情報

- [ニ]：ニーズ調査 [小]：小地域ケア会議・2層協議体
- [個]：個別地域ケア会議 [総]：総合相談
- [他]：その他（懇談会など）



II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- ・①：地域活動で何をやっているのかわからない
誰に聞いたら良いかわからない
- ・①②：どこに情報があるかわからない
情報がありすぎて精査する力がない
そもそも情報をとる意欲がない
- ・②③⑤：困りごとに対して有効な情報が分からない
認知症への理解につながる講座（認知症サポーター養成講座など）に行く機会が少ない
- ・①②③：多様な情報手段への対応能力の低下
- ・④⑤：地域活動に参加したいがリーダー的役割を担いたくない、責任を負いたくない、家族のことなどで忙しい
移動手段が限られており公民館などみんなが集まる場所に行くことが負担になっている



III. 考えられる背景（環境要因）

- ・①⑤：退職後の役割や生きがいの消失
核家族化や未婚増加など、独居や高齢世帯の増加
近隣住民との関係の希薄化
- ・①②③：
情報過多の中で必要な情報の集め方がわからない
社会の多様化に加えコロナ禍後の個別化が進んでいる
社会資源へのアクセス機会低下
- ・④：リーダー的役割へのイメージ
（「責任が伴う」「いろいろとお世話しないといけない」）
- ・⑤：移動手段が限られており（CoCoバスルート減少）みなみ圏域の住民が集まりやすい場所が少ない

※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和8年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（みなみエリア）

活動目標

【A】孤立しがちな高齢者の心配ごとや、どんなことをやりたいかを把握し、必要な支援につなげる（課題①⑤）
 【B】住民が必要と感じている情報を把握しまとめ、情報提供できる仕組みをつくる（課題①②③⑤）
 【C】近隣者で顔の見える関係作りを行う（課題③）
 【D】他分野（障害、子ども）との連携、ICT活用による多様で多層的なつながりをつくる（課題①③④）
 【E】圏域内のコミュニケーション手段強化（課題①④）



活動目標の達成状況（結果評価）

手段	R6	R7	R8	結果
【A】【B】自治会・町会、通いの場、民生委員、総合相談、認知症カフェなどで必要に応じてアンケートまたは聞き取りを行い、ニーズを把握する。				
【A】【C】【D】【E】民生委員や自治会役員と連携し、地域活動につながりたい希望のある方や地域活動を担う存在の人材発掘を行う。				
【A】【B】【C】【E】小規模での話しあいの場（二層協議体・個別地域ケア会議）を行い、地域課題を検討する。				
【B】【D】みなみ包括ニュースの定期発行を行い、住民や地域の情報ツールとして継続する。ケアマネージャーなどの関係者や家族にも圏域の情報が届くようLINEを活用する。				
【B】【C】【E】住民や自治会、通いの場などへの学びの場づくりや情報提供を行う。必要に応じて後方支援を行う。 認知症地域連携推進員と協働し、認知症への理解につながる講座を開催する。 具体例）認知症サポーター養成講座やお金の管理啓発講座、スマホ相談会の実施				
【B】【D】地域デビューガイドを活用し、適宜情報提供を行う。				
【B】【C】【E】応援ブック・マップに掲載しているグループの最新情報の更新、掲載されていないグループの情報を収集しまとめ、みなみ包括内だけでなく情報を必要としている地域住民や関係者に共有できるような仕組みを検討し作成する。 具体例）MCS等を活用し関係者間で最新の情報を更新しやすくする。地域福祉Coと情報（地域のヒト・モノ・場所）共有を行う。				
【B】【C】【D】【E】第二層協議体にて、サロン立ち上げ運営マニュアル（仮）を作成する。				

※ 手段とは：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

I. 地域課題と考えられる課題

1. **小総** 生活に係るちょっとした困りごとがある。
郵便を出しに行けない等。けが等により一時的な支援を必要とする方がいる。
2. **他** 地域の中に継続が難しくなりつつある団体や閉鎖する団体がある。

根拠情報

- 二**：ニーズ調査 **小**：小地域ケア会議(2層協議体)
個：個別地域ケア会議 **総**：総合相談
他：その他（懇談会）

II. 考えられる背景（高齢者等要因）

1. 高齢者のひとり暮らし（夫婦のみ）、健康不安や体力低下。
2. ・リーダーや主になり活動を担う方の不足
・参加者の高齢化により、通うことが困難になる。

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

1. ちょっとした困りごとに対する直接的な支援を確立することは難しい。地域とつながる事で助け合える関係性を作るためにも、地域活動の把握や活動支援、啓発活動を行った。
2. 地域活動の実態把握を行い、広報や場所の紹介などに携わった。

III. 考えられる背景（環境要因）

1. 住環境面が課題となることがある。
身近に頼れる人がいない。
2. ・活動に対しての支援の手不足。
・徒歩で通える範囲での居場所の減少。

※ **地域課題とは**：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和7年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（ひがし エリア）

活動目標

- 1.包括の周知及び情報発信として情報誌配布やLINE配信を継続する。
- 2.活動団体の運営支援や活動団体を訪問し関係性を構築する。
- 3.2層協議体を開催、参加する。
- 4.包括全体で総合相談等から課題抽出を行う。
- 5.新規居場所の立ち上げ



活動目標の達成状況（結果評価）

- 1.情報発信を継続して行っている。
- 2.応援ブック作成に伴い、活動団体に訪問した。また一部活動に参加することで関係性を構築した。
- 3.2層協議体の開催はあったが、地域課題についての検討の機会は少なかった。
- 4.包括全体での課題抽出を継続している。
- 5.居場所の立ち上げまでには至らなかったが、検討の場に参加した。

手段	R3	R4	R5	R6	R7	結果
①応援ブック・マップ、ひがし包括情報紙の配布・配架及び活用を行う。LINEによる配信。自治会・町会等から依頼があれば出張対応をする。						情報発信を継続して行った。 応援ブックの情報更新を行った。 シルバー人材センター班集会での啓発活動をした。
②⑤活動団体を訪問し、顔の見えるつながりを継続する。運営支援を行う。						活動団体への訪問をし、実態把握を行った。 お隣さんカフェにて包括から出し物を行った。
③総合相談等から課題抽出を行う。 入力・検討の場を定期開催する。						センター全体での課題抽出を行っている。 定期ミーティングにて共有をしている。
④⑤2層協議体の開催、参加する。 新規居場所の立ちあげや運営支援を行う。						2層協議体の開催はあったが、新規居場所の立ち上げまでには至らなかった。

※ **活動目標とは：**ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ **手段とは：**この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

I. 地域課題と考えられる課題

1.  住民が地域課題を検討する機会が減少している。
2.  必要としている物やスキルのマッチングがうまくいかない。
（〇〇を短期間借りたい、〇〇を必要な人に使ってほしいが持っていけない、裁縫ができるのでボランティアをしたいが外に行けない等）

- ：ニーズ調査 ：小地域ケア会議(2層協議体)
：個別地域ケア会議 ：総合相談
：その他（懇談会）

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

II. 考えられる背景（高齢者等要因）

1. 地域との関りが希薄になっている。
 - ・ 課題と感じていることを表出する機会がない。
 - ・ 課題を検討して解決しようとする機会がない。
2. 体力・意欲の低下などで自分で情報を探すことが困難、できないことでのあきらめ。
 - ・ どこに聞いたらいいのかわからない。

III. 考えられる背景（環境要因）

1. 町会や自治会の衰退化。
 - ・ 課題を検討する場がない。
2. 必要な情報がいきわたらない。
 - ・ わかりやすい情報源がない。
 - ・ つなぐためのアシストをする人がいない。

※ **地域課題とは**：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和8年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（ひがし エリア）

活動目標

- 1.包括の周知及び情報発信として情報誌配布やLINE配信を継続する。
- 2.活動団体の運営支援や活動団体を訪問し関係性を構築する。
- 3.2層協議体を開催、参加する。
- 4.包括全体で総合相談等から課題抽出を行う。



活動目標の達成状況（結果評価）

--	--

手段	R4	R5	R6	R7	R8	結果
①応援ブック・マップ、ひがし包括情報紙の配布・配架及び活用を行う。LINEによる配信。自治会・町会等から依頼があれば出張対応をする。						
②活動団体を訪問し、顔の見えるつながりを継続する。運営支援を行う。						
③総合相談等から課題抽出を行う。入力・検討の場を定期開催する。						
④2層協議体の開催、参加する。						

※ **活動目標とは：**ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ **手段とは：**この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

I. 地域課題と考えられる課題

- ①（二）近くにスマホを学べるところが必要。
- ②（二）サロンリーダーの継承支援の必要性がある。
- ③（二）体操以外の活動の場が少ない。
- ④（他）男性が参加しやすい社会資源が少ない。



地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

- ①（二）ゆうゆうサロンでのスマホ勉強会が二部制になり、事実上、学べるところが増えた。
- ②（二）サロン主宰者同士が意見交換できる場所を設け、各サロンの運営に関して情報交換し合うことはできた。
- ③（二）新たな趣味活動団体（写友会）とつながることができた。
- ④（他）男性が参加しやすい団体（写友会）を案内できるようになった。

根拠情報

- 二：ニーズ調査
- 小：小地域ケア会議（2層協議体）
- 個：個別地域ケア会議
- 総：総合相談
- 他：その他（懇談会）

II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- ①スマホ操作について気軽に聞きたいが、できないで困っている。
- ②リーダー高齢化と後継者不足。
- ③さくら体操以外の活動場所も知りたい。
- ④男性の社会参加率が低い。



III. 考えられる背景（環境要因）

- ①家族に聞けば解決できる程度のことだが、近くに聞ける人がいない。
- ②リーダー候補者の発掘ができていない。
- ③地域資源の情報収集不足。
- ④男性の社会参加について、ニーズ把握が不十分。

※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和7年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（にし エリア）

活動目標

- ①情報発信の継続。
- ②圏域内のサロン等でスマホ相談会を開催する。
- ③リーダー同士の交流の場の検討。
- ④体操以外の活動の場の立ち上げ支援。
- ⑤男性参加を促しやすい社会資源の発掘。

活動目標の達成状況（結果評価）

- ①チラシ、LINEでの発信に努めた。
- ②ぬくい温ぬくサロンでのスマホ相談会が開催された。
- ③サロン主宰者同士の情報交換会を実施。
- ④新たな活動団体を発掘することができなかった。
- ⑤比較的男性参加者の多い写友会と連携ができた。

手段	R 6	R 7	R 8	結果
①にし包括支援センターから高齢者に有益と思われる情報を都度、LINEで発信する。		→		LINE配信は随時行った。LINE登録者数はR7年度は約20%増加した。
①高齢者向け講座等の開催時「お金の困りごと」「応援ブック」「マップ」をPRする。		→		「いつまでも安心して暮らしていくために今やっておくこと（お金の管理編）」を2回実施。その際に「応援マップ」もPRした。
②④⑤地域住民や地域福祉コーディネーターと協働し、活動支援や資源開発を行う。		→		CSWと協働で活動支援を行なった。資源開発まではできなかったが、圏域内で新しく活動グループを発掘できた。応援ブックへの新規掲載は5件。
③他包括の活動を参考に、リーダー交流会について検討。		→		サロン主宰者同士の情報交換会を1回実施。活動を継続していくうえで工夫していることや不安なこと・困っていることなどを意見交換した。工夫については、欠席者への連絡、メンバー間での役割分担などがあがった。困っていることとしては「活動場が少ない」ことが地域課題としてあがった。
⑤男性が多く参加する活動団体を把握し、関係性を構築する。		→		男性参加者の多い写友会とつながることができ、お元気サミットへの参加と写真撮影を依頼。包括でも同会の展覧会についての周知を行なった。その後、メンバーが4名増えたことをご連絡いただき、良い関係性を構築することができた。

※ **活動目標とは：**ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ **手段とは：**この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

I. 地域課題と考えられる課題

- ①(二)サロン活動ができるような場所が少ない。
- ②(二)(小)活動の自立化ができていないグループがある。
- ③(二)サロンリーダーの継承支援が引き続き必要。
- ④(二)近くにスマホを学べる場所が少ない。
- ⑤(他)男性が参加しやすい社会資源が少ない。

根拠情報

- 二：ニーズ調査 小 小地域ケア会議（2層協議体）
個：個別地域ケア会議 総：総合相談
他：その他（懇談会）

II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- ①公民館で活動する場合、新たな手間が生じたり、もしくは参加者からの集金が必要になる。
- ②リーダーの高齢化と後継者不足。
- ③スマホ操作について気軽に聞きたいが、できないで困っている。
- ④男性の社会参加率が低い。

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

III. 考えられる背景（環境要因）

- ①施設や備品等の老朽化や物価高騰などによる水道光熱費や維持管理費の増加。また、それに伴う公民館の有料化。
- ②リーダー候補者の発掘ができていない。現役世代の共働き世帯が増加。定年後も働かなければいけない経済苦。
- ③家族に聞けば解決できる程度のことだが、近くに聞ける人がいない。
- ④地域資源の情報収集不足。
- ⑤男性の社会参加について、ニーズ把握が不十分。

※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和8年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（にし エリア）

活動目標

- ①情報発信の継続。
- ②公民館有料化に影響を受けるグループが、今後の活動方針を決められるよう支援する。
- ③現リーダーやサロン参加者などから、担い手発掘や活動継続についての情報収集を行う。
- ④今年度も圏域内でスマホ相談会を開催する。
- ⑤男性の社会参加についてのニーズを把握する。

活動目標の達成状況（結果評価）

手段	R 7	R 8	R9	結果
①にし包括から高齢者に有益と思われる情報を都度、LINEで発信する。			→	
①高齢者向け講座等の開催時「お金の困りごと」「応援ブック」「マップ」をPRする。		→		
②⑤地域住民や地域福祉コーディネーターと協働し、情報収集や活動支援を行う。			→	
③他包括の活動を参考に、リーダー交流会について検討。		→		
⑤男性が多く参加する活動団体を把握し、関係性を構築する。			→	

※ **活動目標とは：**ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ **手段とは：**この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。